

2026 四方山話(02)

2026年 6月12日(金)

「川中島の合戦！」 その1

(資料は「甲陽軍艦」「武田信玄・新田次郎」より)

※ 当時、信玄は「晴信」、謙信は「政虎」といったらしいが、今回は、「信玄」「謙信」とします。

(1561年)

永禄4年8月

海津城完成 山本勘助が作事

城代に「高坂弾正」

8月14日 謙信、川中島に進行し「妻女山」に登り陣を張る

高坂、狼煙で信玄に伝える

甲府の「躑躅ヶ崎館」では

信繁「お館様、若神子(わかみこ)に狼煙が上がりました」

信玄「なんと伝えてきた？」

信繁「謙信入道が、いよいよ動き出しました」

信玄「そうか、わかった

3日後に、我々も信濃に向かう

皆に伝えるように・・・」

8月18日 信玄、甲府を出発

若神子城で、全軍20,000人が合流し

「棒道」を通って、信濃へ向かう

上田の「生島足島(いくしまたるしま)神社」で戦勝祈願

8月24日 川中島の「茶臼山」に登り陣を張る

8月29日 海津城に入る

高坂「お館様、ようこそおいでくださいました」

信玄「うん、謙信は山の上から動かぬか」

高坂「はい、もう一月近くになります」

9月 9日午後 信玄、軍議を開く・・・

山本勘助が提案「啄木鳥の戦法」

夜のうちに、高坂・馬場・真田隊(12,000人)が迂回して、裏から妻女山へ登り、

謙信を山から追い落とす・・・作戦  
本隊(8,000人)は、川中島に布陣する

太郎義信・高坂弾正・馬場美濃が賛成する

信玄「これで、決まったな」

「御旗 楯無し 御笑覧あれ」

信玄の後に、居並ぶ諸将が続いた

「御旗 楯無し 御笑覧あれ」

武田は、この一言で、もう戻ることは無い

夕刻、妻女山の上から、信玄の部隊を見ていた謙信が  
諸将のみんなを集めて言った

「今日は、いつもよりも煙が多く上がっているのう

明日の戦のために「食料」を作っているようだ」

「この戦、先に動いた方が負けじゃ」

「武田は、明日動く、我々の勝ちじゃ」

謙信、武田の動きを見極め、

「妻女山には、かがり火をたいておけ  
軍がいるように見せかけよ・・・」

あたりが暗くなると、

音も無く、霧が出てきた

夜9時には、全軍(13,000人)で山を下り

千曲川(雨宮の渡し)を肅々と渡った

「馬には「枚」をかませ、尻を叩くな」

川中島に陣を張る

「明日の戦法は、「車懸かりの陣」とする  
明日日の出とともに、攻撃開始じゃ・・・」

一方、海津城の武田隊

迂回隊を見送った信玄は、

霧の中、本隊を率いて川中島に進んだ

こちらにも、音を立てる者はいない

信玄・太郎義信・典厩信繁・穴山信君

・内藤修理・信濃衆・諏訪衆である

信玄 「本陣は、「12段の鶴翼陣」とする」

山から下りてくる越軍を  
鶴が羽を広げるように  
グルリと取り囲んで討ち取る陣である  
信玄は、八幡原に白幕を張り巡らして  
本陣とし、真ん中の「床几」に座った  
信玄の周りには、「風林火山」と「諏訪法性」  
の旗がぐるりと立てられた

白幕も旗も、濃い霧の水分をびっしりと吸い  
込み、重く垂れ下がったままだった  
夜明けを目指して、  
静かに時間だけが過ぎていく